



## 奈良・元林院の花街文化復興を目指すイベント「ならまち花あかり」 芸妓・菊乃さんと「奈良・元林院花街復興プロジェクト」の挑戦

### ■全国 8 花街から芸妓・舞子（舞妓）が奈良に集結

世界遺産・興福寺そばの猿沢池のほとりにかつて花街（芸妓・舞子\*遊びのできる店が集まった地域）として栄えた「元林院」の復興と、花街文化の紹介やお座敷文化の継承を目指すイベント「ならまち花あかり」が、今年2月26日～28日に奈良市元林院町周辺などで開かれた。民間団体「奈良・元林院花街復興プロジェクト」が主催し、奈良市が共催した。

※芸妓は「舞踊や音曲・鳴物で宴席に興を添え客をもてなす女性」を、舞子は「20歳前後以下の芸妓になる前の修行期間の女性」を指す。地域によっては「舞妓」とも表記するが、奈良・元林院では「舞子」表記を用いる。

企画の中心人物は同プロジェクト代表でキャリア約25年の芸妓・菊乃さん。元林院に唯一残る置屋（芸妓や舞子を派遣するプロダクション）兼お茶屋（芸妓や舞子の芸を見て飲食をする場所）である「つるや」経営者の顔も持つ。同店は最近バーやランチ営業でも人気を集めている。

同プロジェクトによると、現在全国約30都市に花街が残り、今回はそのうち「東京浅草」「東京品川大井」「金沢ひがし」「岐阜鳳川伎連」「福井浜町」「京都上七軒」「京都祇園甲部」「奈良元林院」の8花街から芸妓・舞子らが奈良に集結した。これだけの規模で芸妓・舞子が集まるイベントは、全国的にもあまり例がないという。



全国8花街から奈良に集まった芸妓・舞子の方々。

### ■舞踏公演、宴席、バルなど盛り沢山に開催

まず2月26日には東大寺総合文化センターで「全国花街伝統芸能シンポジウム」を開催。西山厚・帝塚山大学教授の基調講演、菊乃さんと元林院の舞子・菊亀さんの舞踊披露のほか、仲川げん奈良市長や彫刻家の藪内佐斗司さんらが花街文化などについて討論した。

続く27日には、なら100年会館で舞踊公演を実施。昭和31年（1956年）に奈良で盛大に行われたという舞踊興行「大和をどり」の再現を目指して公演に同じ名をつけ、全国8花街の芸妓・舞子が華やかに踊りを披露した。また同日夜には、元林院近くの料亭「菊水楼」と旅館「四季亭」で芸妓・舞子との食事や会話、写真撮影などを比較的安く体験できる「元林院大宴席」を開催した。



東大寺総合文化センターで行われた「全国花街伝統芸能シンポジウム」の様子。



舞踏公演「大和をどり」で挨拶する菊乃さん（写真中央）。向かって右隣が元林院の舞子・菊亀さん。

最終日の28日には、元林院周辺の10軒程度の飲食店で芸妓・舞子と一緒に日本酒を味わえる「花街日本酒バル」を開催。共通参加チケット1,500円を購入すれば各店舗は日本酒1杯と酒肴

1品を500円で提供する仕組みで、気軽に非日常を体験できると女性客を含む多くの人で賑わった。地元や周辺店舗からの反響も大きく、「来年もぜひ開催して欲しい」との声が多く上がっているという。

### ■「奈良・元林院花街復興プロジェクト」の活動

元林院は明治時代に花街として形成され、大正から昭和初期には芸妓や舞子が200人以上在籍するなど、全国有数の賑やかな花街だった。しかしカラオケの普及などでお座敷芸を好む宴会客が減少した等の理由から衰退が進み、現在は芸妓・舞子が4人、置屋は「つるや」1店だけとなった。

そこで2013年に菊乃さんが中心となり、元林院の魅力とおもてなしの心を再興し次世代の芸妓・舞子を育成するとともに、地域芸能や文化の継承・発展を目指す「奈良・元林院花街復興プロジェクト」を立ち上げた。現在はデザイナーやフォトグラファー、旅館関係者など10名程度が活動している。また14年からは舞子を育成する「舞子塾」を開始。現在県内の高校生が1人、学業の傍ら三味線の稽古に励んでいる。

### ■「ならまち花あかり」企画のきっかけ

15年ほど前から「大和をどり」を復活させた



今回の「ならまち花あかり」のPR用チラシ。

いと考えていた菊乃さんだが、元林院の芸妓・舞子が急減する中それは困難だと半ば諦めていた。そんな中、同プロジェクトのメンバーから「全国の芸妓を奈良に呼べば実現できるのでは」との声が上がり一念発起。自身の人脈を手繰って全国8花街に声を掛け、関係各機関とも調整して1年がかりで本イベントの開催にこぎつけた。

### ■奈良から全国へと広がる「花あかり」

菊乃さんの願いは、元林院はもちろん全国の伝統ある花街の文化を未来へ、世界へ伝えること。「今年は何もかも手探りだったが、改善を加えて来年2月に第2回『ならまち花あかり』を開催し、さらに多くの花街から芸妓・舞子を招いてイベントを盛り上げ、奈良の花街を多くの人に知ってほしい。全国の花街も今元気がなくなっている、その芸と街を未来につなげていきたい」という。

実際、今回参加した花街からは「地元でも『花あかり福井』『花あかり岐阜』などと銘打ってイベントをしたい」との声が上がっており、具体的に開催に向けた動きもあるとのこと。菊乃さんは「地域ごとに観光客が少ない時期があるので、そこを狙って花街が連携して各地でイベントを開催すれば、地域活性化にもつながるのでは」と話す。

### ■奈良と全国の花街文化を未来につなぐ

今回の「花あかり」を含め同プロジェクトの活動を支援している小山株式会社（奈良市）の小山新造社長は、「菊乃さんは誰かが始めねばならない元林院復興に勇気を持って挑戦された。伝統を未来につなぐためには花街文化の良さがわかる人を一人でも多く増やす必要がある」と話す。こうした指摘を受け同プロジェクトでは、来年の「花あかり」に向けて企業や行政等の協力をより広く募り、多くの人々を巻き込んでPR効果を高めたいと考えている。

インバウンド（訪日観光客）の増加により日本の伝統文化への関心が高まる中、奈良と全国の花街文化を盛り上げ未来へとつなぐため、菊乃さんとプロジェクトの挑戦は続く。（吉村謙一）